

361

223

初級小學校

日本語教科書 下冊

文教部

K720.8
2
2

K720.8

2

2

初級小學校

滿洲國之教育部發行

日本語教科書 下冊

文 教 部

モクロク

キネンビ	一	日ト月	十五	ゆうびん	二十八
オヒナサマ	二	じかん	十六	曜日	三十
アサ	三	なつやすみ	十七	學藝會	三十二
テガミ	四	うみ	十八	新京	三十三
オハカマイリ	五	にっぽんご	十九	さむいあさ	三十四
エンソク	六	ゆうすずみ	二十	とし	三十五
ハル	八	うんどおかい	二十一	三寒四温	三十六
カイモノ	九	ひこおき	二十二	荷車	三十八
オマツリ	十	秋	二十三	ゆうがた	三十九
コイノボリ	十一	けつせき	二十四	卒業式	四十
シヤシン	十二	大きなまち	二十五		
チクオンキ	十三	かんがえもの	二十六		
テンランカイ	十四	かず	二十七		

初日四

キヨオワ

三月<sup>サンガツ</sup>ツイタチデ、

オメデタイ

日<sup>ヒ</sup>デス。

ドコノ家<sup>イエ</sup>ニモ、

コツキガ

タテテアリマス。



初日四

キネンビ



初日四



初日四

「オトオサン、  
兄サン、カラ  
ハガキガ  
キマシタ。」

「オオ、キレイナ  
エハガキダネ。」  
「ドコノ山デスカ。  
ゴレワ、日本ノ  
富士山デス。」



初日四

今日<sup>キヨ</sup>オ  
ワ、ミンナデ

オハカマイリオシマシタ。  
オハカノマエオ  
ソオジシテ、  
イロイロナモノオ  
ソナエマシタ。  
ソレカラ、カミオ  
ヤイテ、オガミマシタ。



初日四

エンソク

私<sup>ワタシ</sup>ノ<sup>ガッコウ</sup>学校<sup>コウ</sup> デワ、

キヨオ、

エンソク オ

シマシタ。

マチオ

トオツテ、

ノハラニ

デマシタ。



六

初日四

ノハラ ニワ、アオイ

クサガメオ

ダシテイマシタ。

私<sup>ワタシ</sup>たちワ、

オカノ

ウエデ、

ベントオオ

タバマシタ。



初日四

エンソク

七

杏アズキ

ノ ツボミガ、  
 フクレテ キマシタ。  
 タンポポ ヤスミレワ、  
 モオ サイテ イマス。  
 オトオサンワ、ハタケデ  
 タネマキオ  
 シテ イマス。  
 ラバガ、ニグルマオ  
 ヒイテ トオリマス。



初日四

初日四

ゴメン クダサイ。  
 イラツシャイマセ。  
 ゴノ 鉛筆エンピツ ワ、一本イッポン イクラ デス カ。  
 ニ銭ニセン デ ゴザイマス。  
 ゴノ ザツキチヨオ ワ イクラ デス カ。  
 ソレ ワ 五銭ゴセン デ ゴザイマス。  
 ゴノ ザツキチヨオ オ、一冊イツサツ クダサイ。  
 サヨオナラ。  
 アリガトオ ゴザイマシタ。

オマツリ

今日<sup>キヨ</sup>ワ、關帝廟<sup>カンテイビョウ</sup>ノ

オマツリデス。

オオゼイノ

人<sup>ヒト</sup>ガ、

オマイリオ

シテイマス。

イロイロノ

ミセガ、

ナランデイマス。



初日四

十

初日四

田<sup>タ</sup>中<sup>ナカ</sup>サンノオウチデワ、

キヨオ、コイノボリオタテマシタ。

風<sup>カゼ</sup>ガフクト、ヤネノ上<sup>ウエ</sup>マデ、

オガ

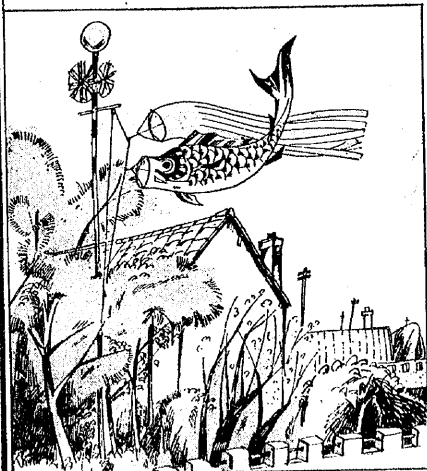
アガリマス。

サオノサキノ

ヤ車<sup>クルマ</sup>ガ、

ガラガラト

ナリマス。



コイノボリ

十一



シャシン

私<sup>ワタシ</sup>

ワ、オトオサント  
 イツシヨニ、  
 フロヤエ  
 イキマシタ。  
 ソコデ、  
 サンパツモシマシタ。  
 ソレカラ、ウチデ  
 シャシンオ  
 トリマシタ。

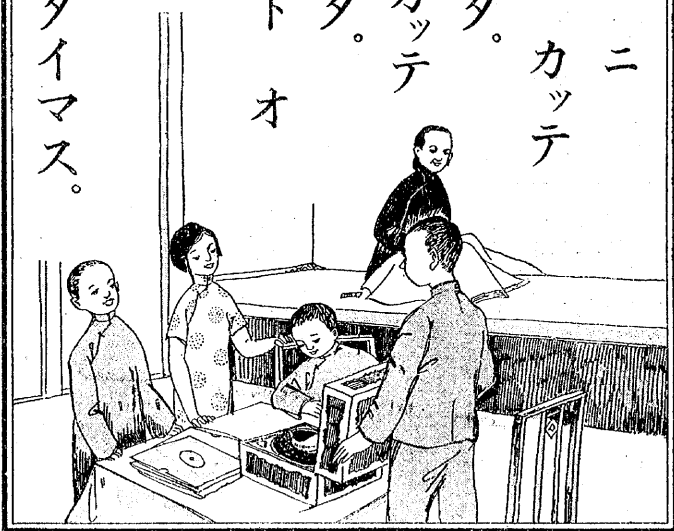


初日四

十二

私<sup>ワタシ</sup>

ワ、オジサンニ  
 チクオンキオカッテ  
 イタダキマシタ。  
 レコオドモカッテ  
 イタダキマシタ。  
 国歌<sup>コクカ</sup>ノレコオドオ  
 カケルト、  
 弟<sup>オト</sup>ヤ妹<sup>イモ</sup>モ、  
 イツシヨニウタイマス。



初日四

十三

チクオンキ

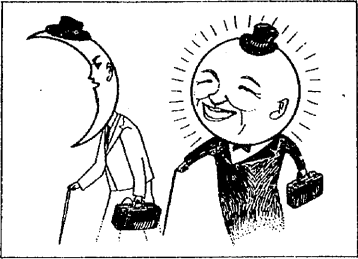
今日、<sup>キヨオ</sup>学校 <sup>ガッコウ</sup>デ、テンランカイ <sup>キヨオ</sup>ガアリ  
 マシタ。アサカラ、<sup>ワタクシ</sup>私タチノオカア  
 サンヤ、ネエサンタチガ、オオセイ  
 イラツシャイマシタ。

<sup>ワタクシ</sup>私ノカイタズガガ、  
 「ヨクデキタ。」トイッテ、  
 ミナサンカラホメラレ  
 マシタ。<sup>ワタクシ</sup>私ワタイソオ  
 ウレシユウゴザイマシタ。



初日四

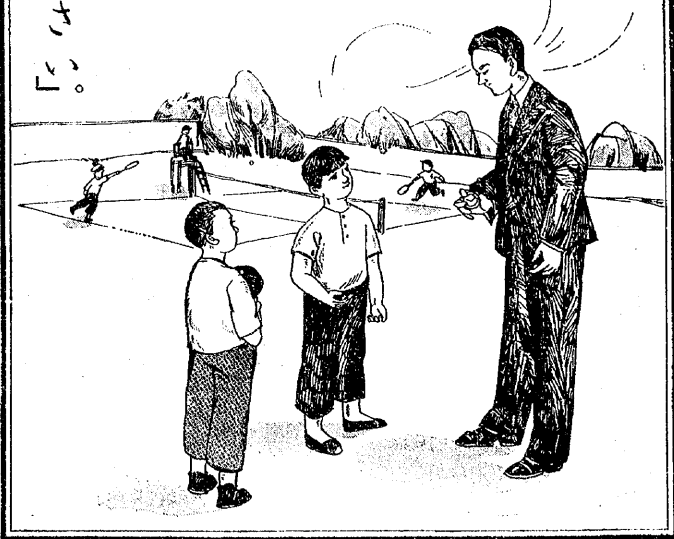
初日四



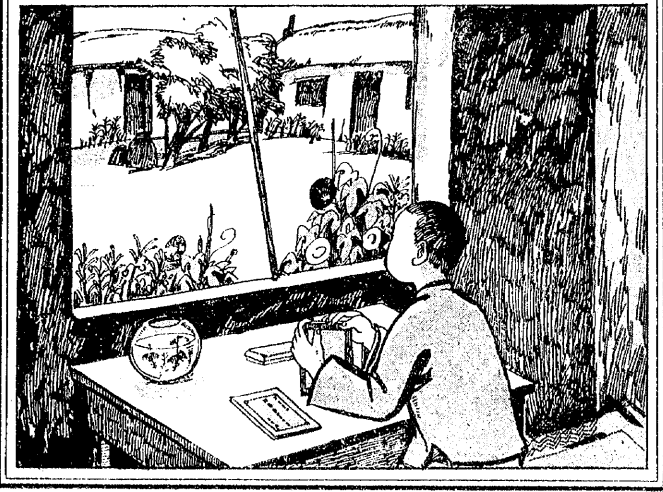
オ日<sup>ヒ</sup>サマトオ月<sup>ツキ</sup>サマガ、一<sup>イチ</sup>シヨニ  
 ヤドヤニトマリマシタ。「ヤドチンワ、  
 オ日<sup>ヒ</sup>サマワ一<sup>イチ</sup>圓<sup>エン</sup>デ、  
 オ月<sup>ツキ</sup>サマワ三十圓<sup>サンジウエン</sup>デス。  
 ト、ヤドヤノシユジンガ  
 イイマシタ。オ月<sup>ツキ</sup>サマワ  
 オコリマシタ。」

シユジンワ、日<sup>ヒ</sup>ニ一<sup>イチ</sup>圓<sup>エン</sup>デスカラ、  
 月<sup>ツキ</sup>ニ三十圓<sup>サンジウエン</sup>デス。トイイマシタ。

「ぜんせい、  
いま  
なんじ  
ですか。」  
「も  
お  
よじ  
です。  
はやく  
おかえりなさい。」



「きよ  
お  
から、  
なつやすみ  
です。」  
「まいあさ、  
ふくしゅう  
お  
しましよお。」



わたくしわ、  
このあいだ  
だいいれんえ  
いきました。  
そして、  
はじめて  
うみお  
みました。

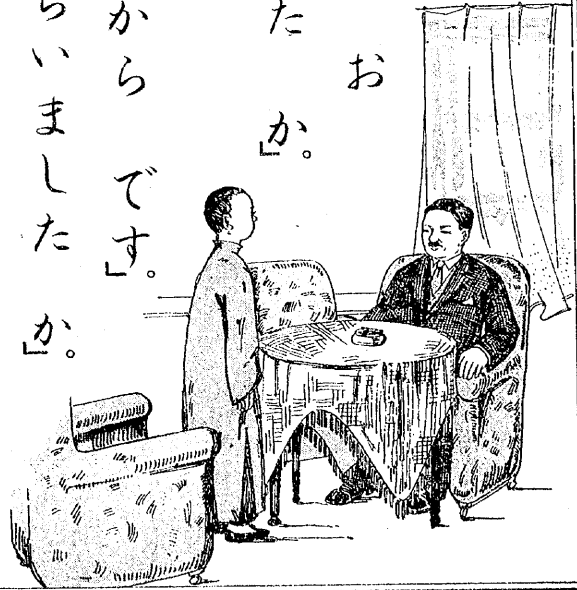


うみ

十八

初日四

「あなたわ、  
いつから  
にっぽんご  
ならいましたか。  
きよねんの  
ろくがつから  
です。  
どこでなら  
いましたか。  
やがくで  
ならいました。」

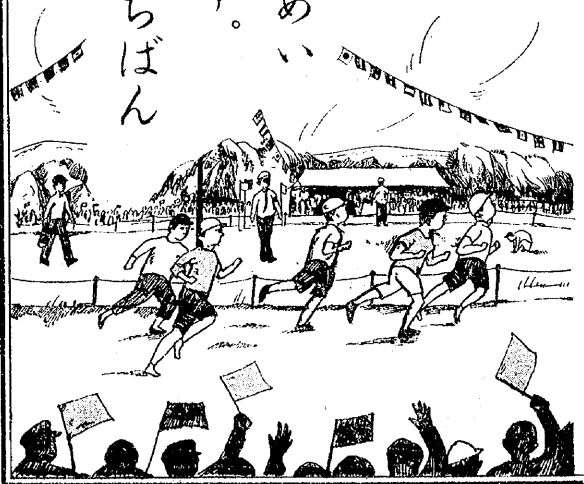


初日四

にっぽんご

十九

うんどおかいがはじまりました。  
 いま、四年生の  
 二百めえとる  
 きよおそおです。  
 みんな、いっしょおけんめい  
 に はしっています。  
 ああ、高さんがいちばん  
 になりました。



うんどおかい

ゆうはんが  
 すんでから、  
 みんな  
 にわにでて、  
 すずんでいます。  
 空にわ、ほしが  
 きらきら  
 ひかっています。



ゆうすずみ

ふうん ふうんと、ぷるぺらのおと おたてて、ひこおきが

とんで きました。

一だい 二だい 三だい、

高い 空 お

とんで きました。

ああ、もお むこお え

いって しまいます。



初日四

初日四

だん だん さむく

なって きました。

へいの そとの

やなぎの はが、

きいろ になりました。

かぜが ふくたびに、

ぱら ぱら と

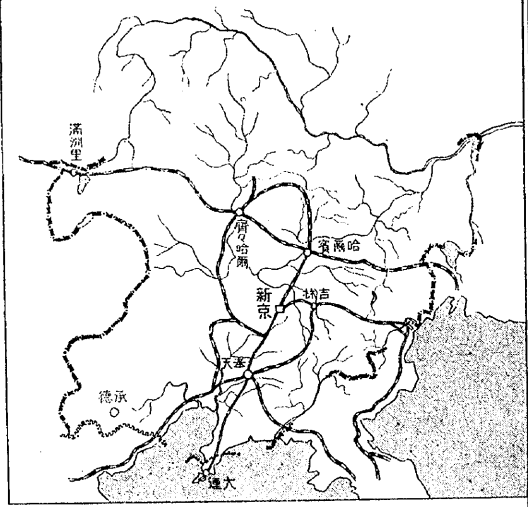
ちります。



秋

二十三

東ひがしにある吉林きつりん



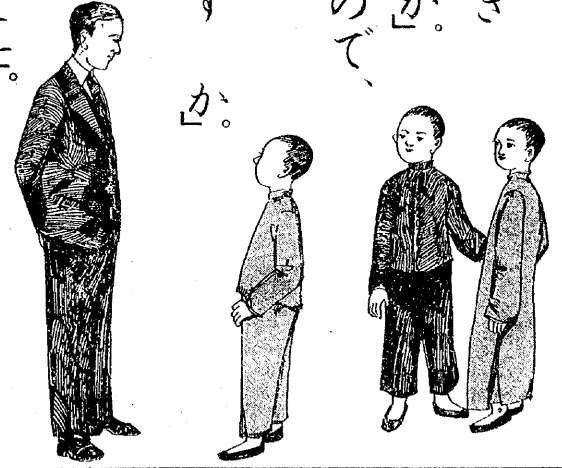
「満洲國まんしゅうこくの大きなまちわどことどこですか。」  
 「まんなかにある新京しんきやう、南みなみの奉天ほうてん、承德しやうとく、北きたの哈爾濱はるびん、齊々哈爾しやうしやうはる、それから、新京しんきやうの」

大きなまち

二十五

けっせき

「あなたわ、きのおどおしてけっせきしましたか。」  
 「なぜおひいたので、やすみました。」  
 「もおよいのですか。」  
 「はい、きよおわもおなりました。」



初日四

二十四

私<sup>わたくし</sup>にわ、においもあじもいろもありません。

また、きまったかたちもありません。

私<sup>わたくし</sup>わ、高いところより、ひくい

ところがすきです。

もし私<sup>わたくし</sup>がいないと、みなさんわ、

いきていることができません。

木<sup>き</sup>や草<sup>くさ</sup>も、かれてしまいます。

私<sup>わたくし</sup>わなんでしょおか。

羊<sup>ひつじ</sup>がたくさんかえります。

一<sup>いつ</sup>ぴきニ<sup>に</sup>ひき三<sup>さん</sup>びき、なんびき

いるか、とてもかぞえる

ことができません。

木<sup>き</sup>のえだに、からすが

ないています。一<sup>いち</sup>わニ<sup>に</sup>わ三<sup>さん</sup>ば、

とてもかぞえきれません。





次郎さん、

ゆうびんきよくえ

いって、このてがみお

だしてきてください。

きってお

はるのですか。

「そおです。これで

三銭さんぜんきっておかって

はってください。



「はい、わかりました。

いってまいります。

「あ、ちよと

おまちなさい。

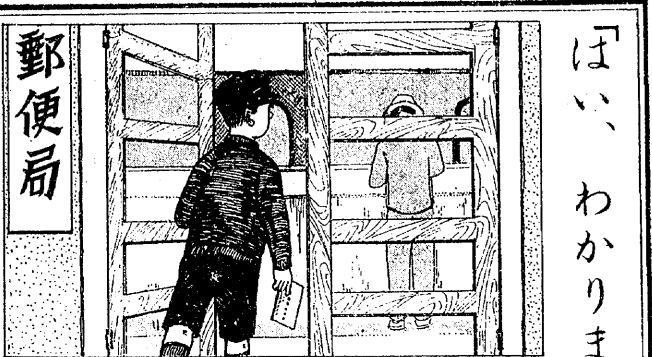
もお 十銭じっせん

あげますから、

ついでに、

はがきお 八枚はちまい

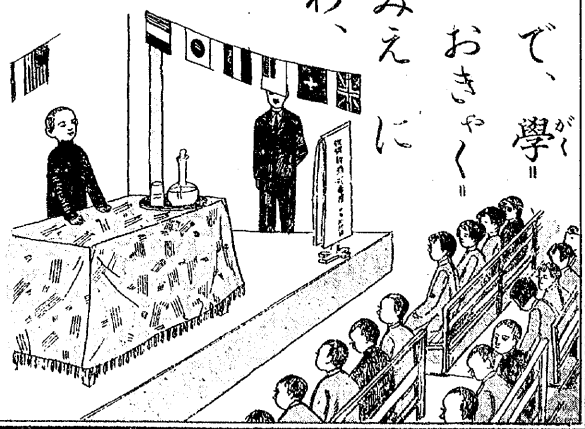
かってきてください。



郵便局



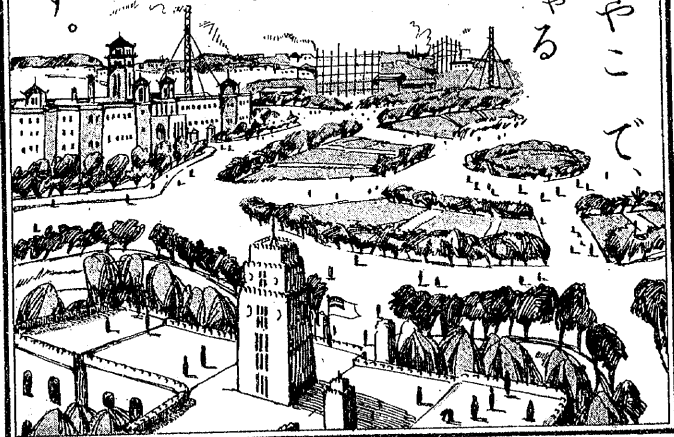
昨日、私たちの學校で、學藝會  
 おひらきました。おきやく  
 さまも、たくさんおみえに  
 なりました。私たちが、  
 おはなし、おしたり、  
 うた、おうたったり、  
 字、おいたり、  
 本、およんだりして、  
 たいそお、おもしろお、  
 ございました。



初日四

三十二

新東京、わが國のみやこで、  
 皇帝へいかのいらっしゃる  
 ところ、です。街にわ、  
 いろいろなやくしよが  
 あります。りっぱな  
 たてもものやうつくしい  
 こおえんができて、  
 これから、だんだん  
 大きな街になります。

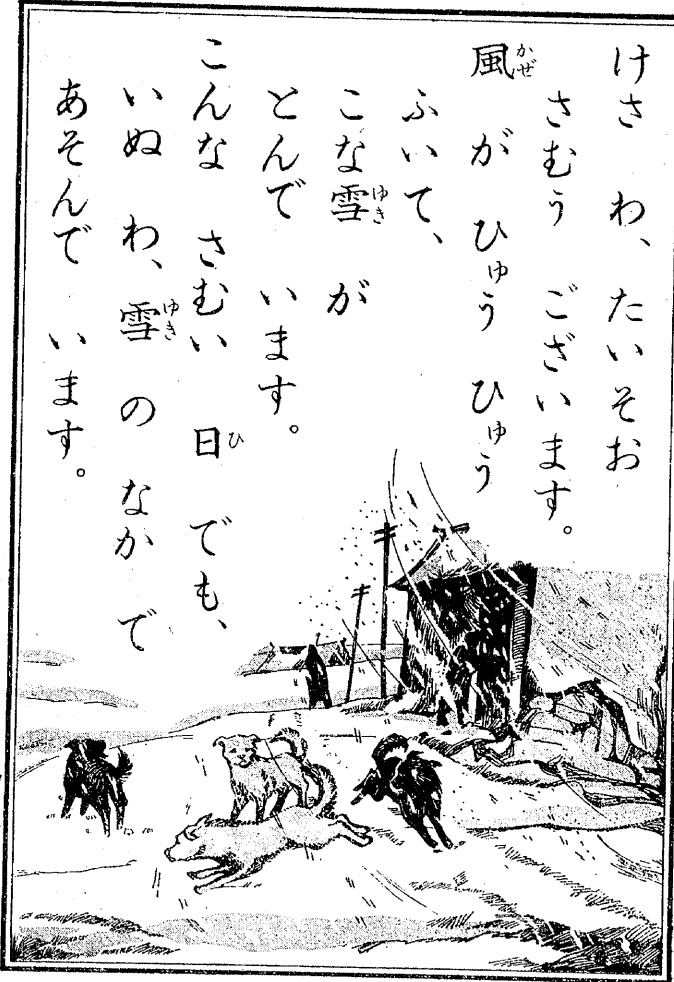


新東京

初日四

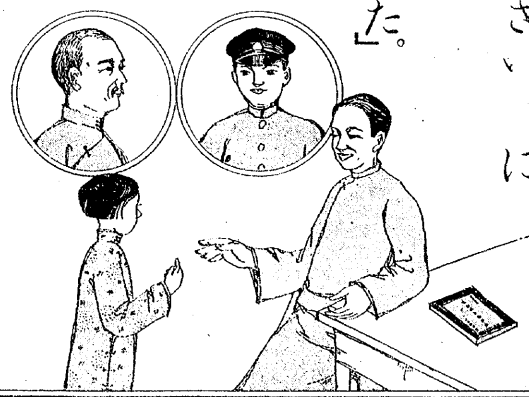
三十三

けさ わ、たいそお  
 さむう ございます。  
 風かぜ が ひゅう ひゅう  
 ふいて、  
 こな雪ゆき が  
 とんで います。  
 こんな さむい 日ひでも、  
 いぬ わ、雪ゆきの なかで  
 あそんで います。



初日四

揚よおさん わ、今年こぞ なんさいに  
 なりましたか。  
 十二じゅうにさいに なりました。  
 兄にいさん わ、おいくつ  
 ですか。  
 ばたち です。  
 おとおさん わ、おいくつ  
 になられましたか。  
 五十六ごじゅうろく歳さい になりました。



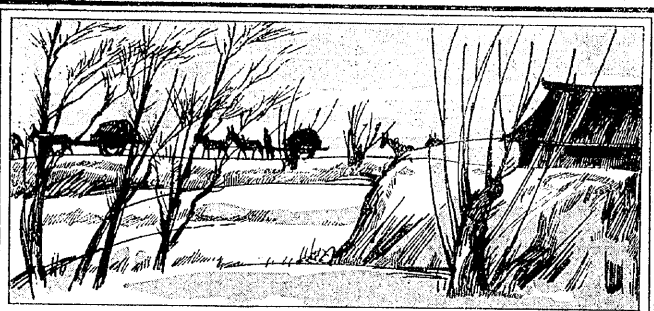
初日四

三寒四温とゆうのわ、  
 何のことですか。  
 と、山田さんが、陳さん  
 に、たずねました。  
 満洲の冬わ、  
 たいてい、三日ほど  
 さむい日がつずくと、  
 つぎの四日ばかりわ、



あたたかい日がつ  
 づきます。  
 それで、むかしから  
 三寒四温と  
 ゆうのです。  
 と、  
 陳さんが  
 こたえました。



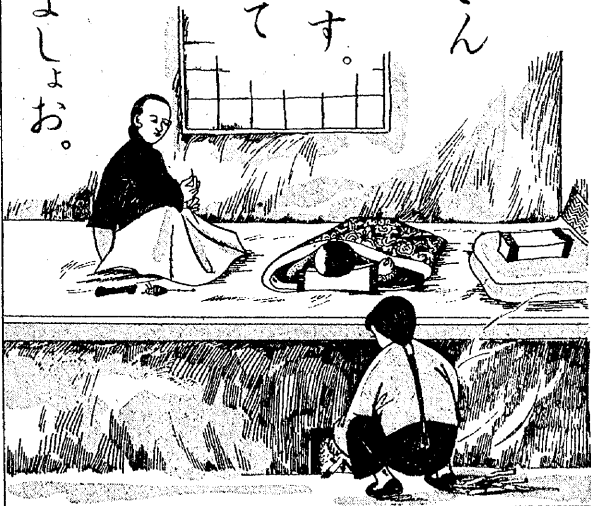


私<sup>わたくし</sup>の家のそばにわ  
ていしゃばえかよお道<sup>みち</sup>  
があります。夜の  
あけないうちから  
がらんがらんとすず  
おならして、なんだい  
も荷車<sup>にぐるま</sup>がとおります。  
どの車<sup>くるま</sup>にもだいた  
おたくさんつんでいま  
す。

初日四

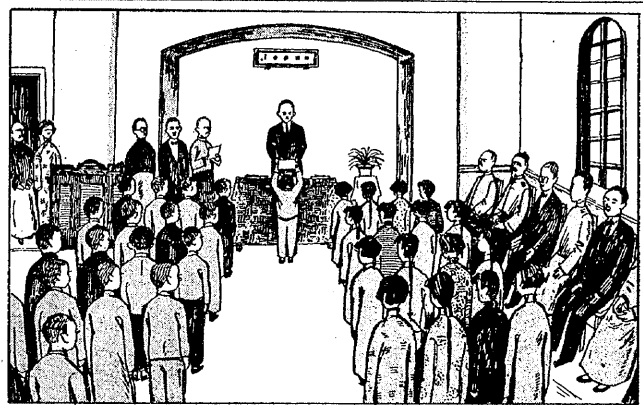
初日四

おかあさん わ、おさいほお  
いらっしゃいます。  
おとおさん もにいさん  
も、もおかえって  
いらっしやるころです。  
だいぶさむくになって  
きましたから、  
かんおたいて、  
へやおあたためましょお。



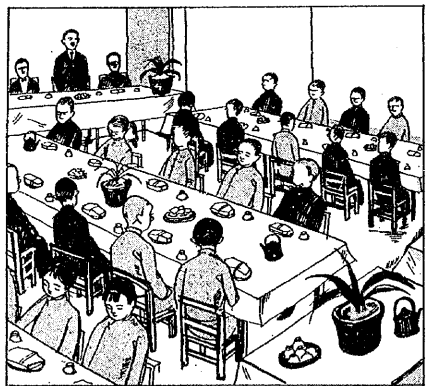
ゆうがた

三十九



卒業式 わ、午前  
十時から、はじまり  
ました。  
呉さんが 私たち  
三十六名の 総代と  
なって、卒業證書 お  
いただきました。  
校長先生 や お客さ  
まが、色々 おはな

おして くださいました。  
級長の 李さん わ、卒業生一同 お  
代表して、答辭 おのべました。  
式が すんで から、  
茶話會がありました。  
みなさんとおわかれ  
して、うちえ  
かえったのわ、五時  
すぎでした。



康徳元年九月一日發行

著作兼  
發行者

文  
教  
部

新京特別市西七馬路

印刷所  
川口印刷所

代表者  
川口芳太郎

ん	わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	ゐ	り	い	み	ひ	に	ち	し	き	い
	う	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	ゑ	れ	え	め	へ	ね	て	せ	け	え
	を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

ば	ば	だ	ざ	が
び	び	(ぢ)	じ	ぎ
ぶ	ぶ	(つ)	ず	ぐ
べ	べ	で	ぜ	げ
ぼ	ぼ	ど	ぞ	ご

(おわり)

初日四

四十二





1  
3